

27年3月研修会
「早春の山辺の道を歩く」

資 料

奈良・人と自然の会

歴史文化クラブ

(3月24日)

行程表

- 10:10 JR長柄駅出発
(全行程:約8Kを徒歩で巡ります)
- 10:20 大和神社・・・解説(約15分)
- 10:50 下池山古墳・・・古墳頂上に登る(絶景)
- 11:15 山辺の道に入る
至る所、下記の畑:刀根早生柿について解説
- 11:40 休憩所・・・昼食(約30分)
- 12:20 出発
- 12:30 竹之内環濠集落
- 12:55 十二神社・・・解説(約15分)
- 13:25 夜都伎神社・・・解説(約15分)
- 13:50 天理観光農園・・・休憩(約20分)
- 14:25 内山永久寺跡
- 14:40 石上神社・・・(約20分) 15:00 出発(延々と歩く)
- 15:30 天理駅着・・・解散
- 近鉄天理駅発 京都行き急行 15:33
- JR天理駅発 奈良方面行き 15:38
- JR天理駅発 高田方面行き 15:32

山の辺の道(長柄～天理)

刀根早世柿発祥地

ここ萱生の地には広大な柿畑が存在する。大和では珍しくない光景だが、富有柿・核無柿と並ぶ三大新種として夙に有名である。

渋抜きも20時間炭酸ガスで処理される技術を創案されたと言う。

後年、特許は和歌山県に売渡し、今では柿の生産量は和歌山1位、奈良2位とか。

9月には現地ですら直販されているので、足を運んで下さい。

十二神社

山の辺の本道から東に外れた通称「明神の森」に鎮まる。大和青垣の連山から西に突き出た屋根の先端に位置する。

拝殿は瓦葺の切妻造り、老朽は進んでいるが粗い連子窓が古社らしい素朴さを添えている。中央に土間の通路が有った割拝殿だったが、今は全面に床が張ってある。本殿は一間社春日造りで銅版葺きの壇上に鎮座する。

天理史によると、天地創成神話の国常立尊など皇祖神十二柱を祀る。この地方の産土神とみられるが、歴史は古く元は延喜式内社の夜都伎神社だったとする説もある。

乙木と竹之内の領地交換の際、乙木側は集落に近い春日神社に鎮守社を集め夜都伎神社に改める。竹之内側は領内にあった白山権現社を合祀して十二神社の祭祀形態を整えるが、農業灌水の必要に迫られ、乙木の三間池と交換、神を代償に物々交換の伝承が残る。

夜都岐神社

社地は大和青垣の山並みから西へ突き出た尾根の先端にあり、宮山とか太鼓山とか呼ばれている。

拝殿の茅葺屋根が面白い。宇陀地方では偶に見かけるが、この草屋根は大和の神社建築としては珍しい。祭神は春日大社と同じ武甕槌・媛大神・経津主・天児屋根の四神に素戔鳴や鬼子母神が加わる。本来の夜都岐の祭神は見当たらないが、各種史料では屋就神・箭就宿祢・夜都岐神など聞きなれない地方神の名が見られる。

いつの頃か、この社地が竹之内のため池と領地交換され際、乙木側は夜都岐の名を春日神社に移し現社名になったと言う。

今、最大の悩みは茅葺の造替だとか、山の辺の道の歴史的遺産であり、行政も手を貸して是非残し後世に伝えて欲しい。

内山永久寺跡

天理市柚之内の本堂池を中心とする一帯の地。鳥羽天皇の勅願で、創建は永久元年(1113年)と伝える。阿弥陀如を本尊とし、堂塔伽藍40余を擁する名刹で鎮守として布留明神を勧請し、石上神宮の神宮寺でもあった。

衰退の経緯は天理市史によると、幕末までの寺礎は971石、神仏分離令の出た1868年412石、更に317石、280、250石と年々減り明治七年には廃寺となる。境内の塔頭や耕地などは還俗した

歴文3月研修会資料

僧に払い下げられたと言う。

最後まで残った鎮守社拝殿であった。13世紀の名建築で1914年に600米北の石上神宮の摂社 出雲健雄神社に移築、s26年に国宝となる。土間の通路が通る割拝殿としては最古のものと言われ、通路上の唐破風などから気品を感じる。

奈良に残る仏教美術美品である・東大寺の木造持国天立像・多聞天立像は、中世彫刻の先駆的名作として国立博物館の常設展に登場するが、明治の廃仏毀釈時に二月堂に寄進され、東大寺の寺宝となったものである。

廃物毀釈で永久寺鏡池の珍魚ワタカも環境変化から生息地を追われ、大正期には石上・東大寺の鏡池に安住の場所を変える。(ワタカは琵琶湖水系に生息する淡水魚であるが、石上・東大寺のワタカは奈良県指定天然記念物となっている)

仏教文化を取り込んだ第一級の真言密教寺院と言われ、今に存続していれば、文化財の豊富な大寺として多くの拝観者が訪れた事だろう。

出雲建雄神社

石上神宮の参道脇の石垣の上に鎮座する。五間社の中央一間が「馬道」と呼ばれる通路になっている。祭神は出雲建雄神、本殿と拝殿が相對しているのが面白い。

屋根の唐破風(永久寺から移築)事。曲線が緩く伸びやかなのが特徴だ。愚かな廃仏毀釈の犠牲になったが、大切に守られているのが救いである。

石上神宮

日本最古の神社の一つで、武門の棟梁たる物部氏の総氏神として古代信仰の中でも特に異彩を放ち、健康長寿・病氣平癒・除災招福・百事成就の守護神として信仰されてきた。有名な国宝の「七支刀」は社伝では「六叉鉞(ろくさのほこ)」と称されている。

古典には「石上神宮」「石上振神宮(いそのかみふるじんぐう)」「石上坐布都御魂神社(いそのかみにますふつのみたまじんじゃ)」等と記され、この他「石上社」「布留社」とも呼ばれている。

平安時代後期、白河天皇は当神宮を殊に崇敬され、現在の拝殿(国宝)は天皇が宮中の神嘉殿(しんかでん)を寄進されたものと伝えている。

中世に入ると興福寺とたびたび抗争し、戦国時代に至り壺千石と称した神領も没収され衰微した。明治を迎え明治4年官幣大社に列し、同16年には神宮号復称が許されました。

かつては本殿がなく、拝殿後方の禁足地(きんそくち)を御本地(ごほんち)と称し、その中央に主祭神が埋斎されていた。

禁足地は現在も「布留社」と刻まれた剣先状石瑞垣で囲まれ、昔の佇まいを残している。

山の辺の道（長柄～天理）の古墳

櫻井市から天理市に掛けての地域に、南から箸墓遺跡、柳本古墳群、大和古墳群が展開している。年代的には大和古墳群が最も古く、次いで箸墓遺跡の古墳群があり、その次が柳本古墳群となる。

2月研修会の箸墓遺跡では、初めての大型前方後円墳：箸墓古墳を見た。また箸墓遺跡には出現に先行する箸墓型前方後円墳などが存在するが、この地域にはそれよりもやや古いと推定される円墳や前方後方墳なども見られる。

大和古墳群（別紙の地図を参照下さい）

大和古墳群は、西殿塚古墳を盟主に山辺の道に沿って北に向かって展開している。主に古墳時代初期（三世紀から四世紀）のもので、西山塚古墳のみが六世紀の古墳である。

大和古墳群・成願寺支群

1. 馬口（ばくち）山古墳：墳丘長110mの前方後円墳（最も古いと推定されている）
2. 星塚古墳：方形の連結した特異な形の前方後方墳（後方部は1辺60mの正方形）
3. フサギ塚古墳：前方後方墳、（後方部60m）
5. 平塚古墳：径約54mの円墳

大和古墳群・萱生（かよう）支群

8. 波多子塚古墳：墳丘長140mの前方後方墳（90mの前方部と45mの後方部）
11. マバカ古墳：墳丘長74mの前方後円墳
13. 西山塚古墳：墳丘長114mの前方後円墳、（唯一の六世紀の古墳）
継体天皇の皇后である手白香皇女墓の可能性も指摘されている
14. 下池山古墳：墳丘長120mの前方後方墳、長さ6mほどのコウヤマキ木棺が出土
15. 西ノ塚古墳：径約35mの円墳
16. 栗塚古墳：墳丘長120mの前方後円墳

大和古墳群・中山支群

17. 西殿塚古墳：墳丘長234mの前方後円墳
箸墓古墳に次いで築造された。
（衾田陵：手白香皇女墓に指定されているが、古墳からの出土品などから、初期の古墳であり年代が一致しない）
18. 東殿塚古墳：墳丘長140mの前方後円墳（前方部の長い形が特徴）
20. 中山大塚古墳：墳丘長120mの前方後円墳
古墳の形や特殊器台の出土などから、箸墓古墳に次ぐものと思われる。

*南側の柳本古墳群には、

大型古墳の黒塚古墳、崇神天皇陵、景行天皇陵などがあります。

以上



トレイル青垣 山の辺の道や東海自然歩道の魅力を紹介している学習・休憩施設。黒塚古墳石室を復元した展示も。環濠集落 竹之内町は数ある大和の環濠集落のうち、最も高い位置にある。菅生町環濠集落の近くには菅生千塚古墳。水濠に大和棟が静かに映る。首師の里 柿本人麻呂ゆかりの地で幾首かの歌に詠まれている。巻向川の清流、ゆるやかにうねるミカン畑が近くに。

墳。中世から近世にかけては柳本城の一部に利用されたこともある。1998(平成10)年1月に三角縁神鏡33面ほかが出土し、話題となった。柳本古墳群 奈良盆地を代表する大型古墳群。景行天皇陵とよばれている渋谷向山古墳は全長約300m、崇神天皇陵といわれる行燈山古墳は全長約242m。以上2大古墳のほか、天神山古墳や珍しい双方中門の形をなす備山古墳など。長岳寺 空海開基と伝え、空日大師の名で親しまれている。鍾樓門や阿弥陀三尊像(いずれも重文)ほか寺宝が多い。簡潔な美を誇る庭園や裏山の石仏も見ごと。





大和古墳群